

あなたの教育投資を パイオフさせるための一冊

ゲリー・S・ベッカー 著『ベッカー教授の経済学ではこう考える』
ギティ・N・ベッカー 著
東洋経済新報社

どうして大学進学が賢
明な投資でないとい

えようか―これは「ベッカ
ー教授の経済学ではこう考
える 教育・結婚から税
金・通貨問題まで」(ゲー
リー・S・ベッカー、ギテ
ィ・N・ベッカー著、鞍谷
雅敏、岡田滋行訳、東洋経
済新報社、一九九八年発行、
二四〇〇円 ISBN4921-
31250-1)に掲載されてい
る記事の小見出しである。

ノーベル経済学賞を一九九二年
に受賞したベッカーが「ビジネ
ス・ウィーク誌」に定期的に寄稿
した記事を、一冊の本にまとめた
ものである。当時、コロンビア大
学で博士論文を書いていた私は、
彼の記事を読むたびに、なるほど
経済学は面白いと胸をわくわくさ
せたものだ。市場経済に基づ
く経済システムの優位性を、日々
の暮らしの中からテーマを選び、
鋭く経済分析。経済学が分析ツ
ールとして極めて有効であることを
読者はすぐに理解するであろう。
ベッカーの研究によると、大学
教育は生涯における所得を増加さ



せ、その金銭的な投資収益率はお
よそ7〜10%と計算している。

今、日本経済はかつてない局面
を迎えている。ベッカーが分析を
行った経済状況とは異なるのだ。
そこで残念ながら、この小見出し
が諸君の場合に当てはまるという
保証は必ずしもない。ではどうし
たら、賢明な投資となるだろうか。
そもそも教育を経済学的に分析す
るといふことは何なのか。将来の
キャリアを展望して、これからの
大学生活を位置づけることは重要
だ。そこで、この本の一読をお勧
めする。この続きは労働経済学の
講義で……



石井 久子 (いしい・ひさこ)

経済学部助教授。

労働経済学と国際雇用論を担当。慶應義塾大学卒業後、日本IBM株式会社に勤務。新製品の開発プロジェクトに参加。その後、コロンビア大学大学院に留学。Ph.D.を授与。留学中は、各国の料理の食べ歩きを楽しんだ。帰国後、世界の料理の味を思い出しながら、創作料理を楽しむ。世界は美味で、面白い。もっと世界を探索してみたいか？